

ALEXANDRE

アレクサンドル・カントロフ
ピアノ・リサイタル

piano Recital

KAN

PIANO RECITAL

11/30(土)19時
サントリーホール

Saturday, November 30, 2024 at 7 p.m. Suntory Hall, Tokyo

ブラームス:

ラプソディ 口短調 op. 79-1

Brahms: Rhapsody in B minor, op. 79 No. 1

リスト:

超絶技巧練習曲集S. 139から 第12番「雪あらし」

Liszt:

Études d'exécution transcendante, No. 12 "Chasse-neige"

リスト:

巡礼の年第1年「スイス」S. 160から

「オーベルマンの谷」

Liszt: Années de pèlerinage: Première année "Suisse",
"Vallée d'Obermann"

バルトーク:

ラプソディ op. 1 Sz. 26

Bartók: Rhapsody, op. 1 Sz. 26

ラフマニノフ:

ピアノ・ソナタ第1番 二短調 op. 28

Rachmaninov: Piano Sonata No. 1 in D minor, op. 28

J.S.バッハ(ブラームス編):

シャコンヌ BWV1004

J.S.Bach (arr: Brahms): Chaconne, BWV1004

S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000

主催: KAJIMOTO

TO RO W

KAJIMOTO

アレクサンドル・カントロフは生身の音楽である。

アレクサンドル・カントロフは生身の音楽である。ピアノに触れば、たちまちそれは起こる。ピアノを弾くとか、作品を演奏するのではない。そのまま音楽として生まれるのだ。

ただならぬ気配がある。昏く、研ぎ澄まされ、冷徹で、ひどく熱い。その生々しい感触を、あえて言葉にするなら、創造の焔に触れる畏怖と驚異を覚えるというのに近い。人間の内奥には、まだそのような凄絶な情熱が潜んでいるのだ。

異様に冴えている。ブラームス、リスト、バルトーク、ラフマニノフ、そしてもちろんバッハも、みな狂おしいほどの天才だ。創造の瞬間には、ほとんど神がかってみえる。しかしそれでも彼らは人間で、だから慄然とする感情が鮮やかに伝わってくる。カントロフもそのように、緊迫した切実さで音楽の瞬間をぎりぎり生きぬく。迸る野生の獐猛さも神秘的な優美さも包むように。

ひたすら仕上がりに向かうのではなく、生成の不安定な揺らぎに身を賭している。生命は綱渡りだ。いたく切実で真率である。魔法はいつも立ち起こるものではないとしても、カントロフには挑みの覚悟がある、いつでも剥き身の人間として臨むだけの。

天性の若き音楽家がしばしの休養を経て帰ってくる。チャイコフスキー・コンクール優勝から間断なく演奏会を続けるなか、なにより静けさと余白を求めているのは彼自身であるはずだ。再会のプログラムは、3枚の独奏アルバムにも鏤めたレパートリーが中心で、ベストの得意曲を織り成したものとみられる。清新な息を吹き込まれ、種々の愛奏曲はなおも鮮烈に打ち震える生命を歌い上げることだろう。

青澤 隆明(音楽評論家)

アレクサンドル・カントロフ(ピアノ) Alexandre Kantorow, *Piano*

“カントロフはリストの生まれ変わりだ。私は、彼のように楽器を操り、これらの作品を奏でるピアニストを他に知らない”

Jerry Dubins(『ファンファーレ』誌)

22歳で挑んだ2019年のチャイコフスキー国際コンクールにおいて、フランスのピアニストとして初めて優勝。

今やフランス・ピアノ界のホープとして定評のある彼は、早くに演奏活動を開始。16歳の時、ナントとワルシャワのラ・フォル・ジュルネ音楽祭から招かれシンフォニア・ヴァルソヴィアと共演して以来、数多くのオーケストラからソリストとして招かれており、ゲルギエフ指揮マリンスキー劇場管、パッパーノ指揮シュターツカペレ・ベルリン、クルレンツィス指揮SWR響、そしてバリ管、ミュンヘン・フィルなどと共演を重ね、昨シーズンはベルリン・フィル(ソヒエフ指揮)、ピッツバーグ響、そしてBBCプロムスにデビューした。今シーズンはネゼ=セガン指揮MET管と初共演する。

またアムステルダム・コンセルトヘボウ、ベルリンのコンツェルトハウス、フィラルモニー・ド・パリ、ニューヨークのカーネギーホールなどの一流ホールで演奏を披露し、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ラヴィニア音楽祭などの著名な国際音楽祭に出演している。2022年、ヴァイオリニストのL.ペトロヴァとチェリストのA.パスカルと共に、「ニーム国際音楽祭」の芸術監督に就任。

録音では、デビュー・アルバム『A la russe』(BIS)が、クラシカ誌の年間最優秀シヨク賞に輝き、ディアパゾン誌、ピアノニュース誌の特薦盤に選ばれるなど、広く注目され高い評価を得た。BISレーベルからはリストやサン=サーンスのピアノ協奏曲集のほか、『ブラームス、リスト、バルトーク』アルバム(2020)を録音しディアパゾンとシヨク賞を2年連続で受賞。最新盤の『ブラームス:「ソナタ第3番」「左手のためのシャコンヌ」「4つのバラード」』もディアパゾンとシヨク賞を獲得した。

2019年、フランス仏批評家協会賞の年間最優秀新人音楽家部門を受賞。2020年には、先述のサン=サーンスの協奏曲アルバムで、フランスの最も権威ある音楽賞「ヴィクトワール・ド・ラ・ミュージク・クラシック」の2部門(年間最優秀録音部門/年間最優秀器楽ソリスト部門)を同時受賞するという快挙を成し遂げた。2023年にはフランス人として初めて、そして歴代最年少で国際的に最も権威のある賞のひとつ、ギルモア・アーティスト賞を受賞。また2024年には国家功労勲章シュヴァリエを受章。



©Sasha Gusov

チケットのお申込み

カジモト・イープラス

検索

www.kajimotoeplus.com

カジモト・イープラス 050-3185-6728

※オペレーター対応(10:00~18:00)
ホームページからお申込みいただけます。

“kajimotomusic”で検索! @kajimoto_News @kajimotomusic

チケットぴあ <https://t.pia.jp>(Pコード: 274-675)
e+ (イープラス) <https://eplus.jp/>
CNプレイガイド www.cnplayguide.com
ローソンチケット <https://l-tike.com/>
サントリーホールチケットセンター
0570-55-0017(オペレーター対応 10:00~18:00 ※休館日は休業)

カジモト・イープラス



一般発売:
7/6(土) 10:00~

カジモト・イープラス会員限定先行受付: 6/27(木) 12:00~30(日) 18:00 先行受付専用番号 TEL: 050-3185-6713[10:00~18:00(初日のみ12:00より受付)]

●やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承ください。
●未就学児のご入場はご遠慮いただいております。 ●団体料金のご設定のある公演もございます。詳しくはお問合せください。
●ご来場の皆様にご安心してお聴きいただけますよう、感染症の防止と予防のための適切な対策に今後も引き続きご協力をお願い申し上げます。

KAJIMOTO 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-4-1 東海堂銀座ビル5階 ticket@kajimotomusic.com <https://www.kajimotomusic.com/>